

# 「芦高」が育むもの

第23代校長 河上昭悟

---

兵庫県立芦屋高等学校が創立80周年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。私が感じた「芦高」とは、六甲山から海辺のヨットハーバーに至る風光明媚な阪神モダニズムの発祥地芦屋で、地元の熱い願いを受けて昭和15年4月に県立芦屋中学校として誕生したこと。創立時は太平洋戦争の前年で、自前の校舎を持たないままに、戦争、空襲、敗戦と時代に翻弄されながら机椅子を抱えて校舎を転々とし8年後にやっと現在地に校舎を持つに至ったこと。戦後は教職員・生徒が一丸となって学校教育の民主化を進め、自由闊達な校風を築いてきたこと。その熱い思いが昭和27年夏の高校野球全国大会の優勝で在校生・卒業生の誇りとなりました。今日の教育綱領「自治・自由・創造」はこの様な背景で産まれたと思います。

私が「芦高」にお世話になりましたのは平成20年からの3年間でした。阪神・淡路大震災の被災を経験し、平成17年に「普通科単位制」に切り替わって4年目でした。「仕事ナビ」としてOBやPTA、職業人を講師に招いての職業紹介、「進路ナビ」として本校卒業生の大学や専門学校での生活紹介、「授業ナビ」としての授業公開の実施、高大連携として甲南大学や甲南女子大学と講座受講と単位認定等々生徒の意欲を引き上げる取り組みを進めて参りました。その間、保護者やOBの「あしかび会」の皆様には温かいご支援を頂戴いたしました。改めてお礼を申し上げます。私はJRで通勤していました。JR西宮名塩駅で一人の本校生徒と乗り合わせます。制服が特徴的でよく目立ちました。落ち着いた举措で内心嬉しく思いながら、単位制とはこの様な生徒の学校選択をも可能にするシステムなのだと思心しました。その生徒は今、東京オリンピックセーリング競技での活躍が期待されています。今後も「芦高」が「自治・自由・創造」の下、自立した若者を育む教育の器であり続けることを願ってやみません。